



# Noguchi Times

**NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 4 2014.10.9**



米国財団法人野口医学研究所 参与会会長 安東 恭助

## CONTENTS

■ご挨拶	.....	p2
■第14回NIBC開催内容報告	.....	p3
■医学交流活動 -臨床研修報告-	.....	P4
■海外でのビジネス活動 -台湾での講演会-	.....	p5
■最新情報 -食品の機能性表示-	.....	p6
■賛助会員のご紹介	.....	p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内	.....	P7

# ご挨拶

## 私と野口医学研究所

今から遡ること約3年。

私は知人の紹介で、野口英世博士の肖像を掲げる米国財団法人「野口医学研究所」（以下、「野口」という）の存在を知りました。千円札以外で、野口博士に触れるのは小学校の授業以来です。実際に「野口」の活動を詳しく聞いてみると、私自身が行っている事業との関連性を強く感じた上、その理念と活動内容に賛同出来たのでその場で賛助会員に申込みをしました。それが切掛けとなって、現在は参与会副会長として「野口」の活動を支援していますが、その活動を通じて知り合った方々との出会いや経験は、当に私の宝となっています。



私は、自身の事業と「野口」の活動を合わせることで、どのような社会貢献が出来るだろうかと常に考えています。ここでは、その一つをお話し致します。

現在日本では、様々な業種が人手不足に陥っていることを、私は目の当たりにしています。医療や介護の分野はその代表的な業種といいいいでしょう。今後、益々高齢化社会が進んでいくと、この分野での労働力不足は社会不安を招きかねません。その解決策として、私は自分自身が長年に亘って行っているアジア各国からの労働者受け入れ事業を、この分野へ本格的に進出させることが出来ないか計画をしています。言葉の問題、日本のレベルに対応可能な専門知識と技能の習得等、課題はたくさんありますが、この労働力不足に対する不安を払拭させることが出来れば、これは大変な社会貢献になると確信しています。

そんな時に、日本政府がアジア地域からの介護士技能実習生の入国に関する法律の改正案を発表しました。特に介護士不足に直面している日本では、人手不足が原因と考えられる施設内での事故が多発しているにも拘らず、仕事量と賃金のバランスが取れず、その定着率は一向に改善されません。日本人のみでの対応は既に不可能と言っても過言ではありません。私はここが大きなビジネスチャンスであり、同時に、当に社会貢献であると考えました。

既に、関係法案の改正を見込んで、国内でもトップクラスの老人施設を運営しているグループと共に、タイ、ベトナム、ミャンマーには日本式介護士訓練校を開校し、カンボジア、ラオス、中国でも準備を進めています。今回の法改正を契機として、途上国には労働市場の提供、日本には労働力不足を補うことで双方に対し、社会貢献出来るのではと思います。

私は参与会副会長として、「野口」の理念に基づき行動し、その目標である「患者優先の医療の実現」を達成したいと思っています。

米国財団法人野口医学研究所  
参与会副会長 西澤 敏彦

# 第14回NIBC開催内容報告

## (NIBC : Noguchi International Business Conference)

【日程】2014年7月29日(火)

【開催場所】野口医学研究所 9階会議室

### 中小企業の経営者が知っておくべき法律あれこれ

企業を取り巻く環境が大変厳しくなってきた今、知識を蓄え権利を確りと守っていく姿勢を保つことが大変重要であり、これが企業評価の向上や成長、発展へと繋がると考えています。今回は説例を交えながら、戦力的法務についてご説明していきます。

まず1つ目は「債権管理」についてです。債権回収は会社の保全のために積極的に行うべきと考えます。約定担保、法廷担保、連帯保証、相殺など様々な権利がありますが、状況によって組み合わせることで活用の範囲も広がります。2つ目は「労務管理」についてです。主に「管理監督者」と呼ばれる雇用者の労働条件に関する問題が多く、時間外労働や休日労働、深夜労働などが挙げられます。大手飲食業M社事件の設例では、雇用者側の勝訴に至ったという事案もあります。3つ目は「守秘義務」についてです。最近起こった大手出版会社B社での派遣社員の情報漏えい問題の設例を紹介します。現況では、正当取得者の使用の場合、処罰の対象外となっていますが、本件は社会に与えた影響も大きく今後法律の改定も検討されています。今日、お話しした説例以外でも企業法務は大変重要です。是非目を向けて頂き、皆様の会社が発展されることを願います。



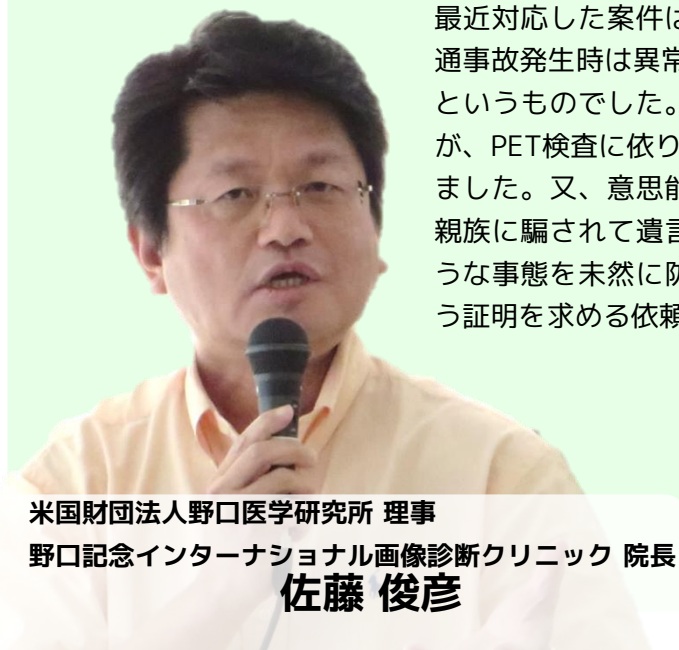
米国財団法人野口医学研究所 顧問弁護士  
磯邊・高橋・八木法律事務所  
八木 清文

### 症例から学ぶ —セカンドオピニオン外来のいま—

セカンドオピニオンとは患者が検査や治療を受けるに当たり主治医以外の医師に意見を求める事を言います。

最近対応した案件は弁護士事務所の依頼に依る高次脳機能障害の症例です。交通事故発生時は異常が見られなかったものの、2,3ヶ月後に認知障害が出現したというものでした。症状から考えて真っ先に疑われるのは慢性硬膜下出血ですが、PET検査に依り実は交通事故での脳挫傷が原因であったという事が証明されました。又、意思能力鑑定の症例では既に高次脳機能障害を起こしている人が親族に騙されて遺言書を作成してしまい係争に発展するケースがあり、そのような事態を未然に防ぐ為にも遺言書を作成した時点では認知障害ではないという証明を求める依頼が増えています。

癌治療に於いても患者と相談しながら宇都宮セントラルクリニックや複数の放射線治療センターと連携して治療にあたっています。このように様々な案件に対応していますので、もし身近にお困りの方がいらっしゃったら是非ご相談下さい。



米国財団法人野口医学研究所 理事  
野口記念インターナショナル画像診断クリニック 院長  
佐藤 俊彦



# 医学交流活動 -臨床研修報告-

2014年8月4日（月）～8月7日（木）

於：ハワイ大学医学部（John A. Burns School of Medicine）

一般社団法人野口医学研究所「社団野口」の収益金の一部は、米国財団法人野口医学研究所「財団野口」を通じて、国際医学交流に使われています。

8月4日から4日間に亘りハワイ大学医学部（JABSOM:John A. Burns School of Medicine）に於いて医学部5・6年生を対象としたワークショップが実施されましたので、概要と研修生の感想をご紹介します。

## 研修スケジュール

1 日 目	Workshop Overview Tour of MEB PBL Case #1, Step 1, Step 2, Step 3 Physical Examination Skills #1, Cardiac Exam
2 日 目	Morning Stories Physical Examination Skills #2, Lung Exam PBL Case #2, Step 1, Step 2, Step 3 Lecture
3 日 目	Morning Stories Orientation to Center for Clinical Skills Simulated Patient Exam Cultural Activity Video Review Doctor/Patient Communication: Smoking Cessation Communication Practice
4 日 目	Morning Stories Injection Clinic, Sub-Q, Intradermal, IM Doctor/Patient Communication: Delivering Bad News Communication Practice

※ハリケーンの影響により当初予定されていた5日間のスケジュールが1日短縮され、4日間の研修となった。

## 研修生のレポートより

■ 今回のワークショップは自分にとって大きな一歩となりました。海外留学を諦めつつあった自分ですが、自己の能力を知り、大切な仲間を得たことで、海外留学への意志とビジョンをもつことができました。可能であれば、学生のうちに、病院での実習に参加し、イメージだけでなく現実として海外留学のビジョンをもつことができると考えております。

[東京慈恵会医科大学医学部 5年]

■ 今回のハワイ訪問で発見した新しい一面、それは教育にかける情熱です。私たちのワークショップはたった4日間と短いものでした（最終日にはハリケーンが来たため5日間の予定が1日短くなり4日間となりました）が、先生方、医学生の皆さん、そしてワークショップを担当して下さったコリジョーさん、その全員が私たちをサポートし、少しでも多くのものを得て日本に持ち帰ることができるように全力を注いでくださっているのが、よく伝わってきました。

[聖マリアンナ医科大学医学部 6年]



ハワイ大学医学部（JABSOM）

# 海外でのビジネス活動 -台湾での講演会-

2014年9月14日（日） 於：台湾・日月潭



海外取引先の一社であり「財団野口」の品質推奨認定品『生命の光（無機ゲルマニウム使用製品）』を取り扱う稷富国際科技有限公司（台湾）が創立9年目を迎え、台湾の日月潭に於いて代理店様をご招待しての祝賀パーティーが催されました。稷富国際科技有限公司林CEOからの依頼を受け、「財団野口」創業者・名誉理事の浅野嘉久が「如何に病気を予防するか」と題し、講演を行いました。



「社団野口」には医学博士、看護師、管理栄養士、サプリメントアドバイザー等のスタッフが常勤しています。又、「財団野口」のネットワークにより、第一線で活躍する医師や薬学博士等、一流の講師による講演会・勉強会の実施も可能です。

健康や医療に係わる情報を一般の方向けに解りやすく丁寧にお伝えしますので、多くの企業様から好評を得ています。ご興味のある方は是非「社団野口」までお問い合わせ下さい。

## 過去に実施した講演会・勉強会のテーマ（一例）

- ・ 医食同源、薬食同源
- ・ 医学教育について
- ・ 食が身体を守る
- ・ 正しい食事こそが予防医学
- ・ 統合医療について
- ・ 健康食品に関する基礎知識
- ・ 食育と日本人に合った食養生
- ・ 日本に於ける医療
- ・ 国際医療の現状
- ・ 水の重要性
- ・ 栄養学とサプリメントについて
- ・ 健康長寿に必要な社会全体の実践
- ・ 悪性新生物（がん）という病
- ・ メタボリックシンドロームと長寿のサイエンス等々。



# 食品の機能性表示

## 健康食品を取り扱う企業の皆様へ

2015年4月から健康食品に係わる表示の規制緩和により、企業の責任において機能性を表示できるようになります。

但し、**機能性表示を行うには科学的根拠が必要**です。

### 【機能性表示を行う為に必要となる条件】

(下記のうちいずれかを満たす必要がある)

- ・最終製品での臨床試験（特定保健用食品の試験方法に準じたもの）
- ・機能性関与成分に関する査読つき論文のシステマティックレビュー  
※システマティックレビュー…対象成分の機能性について、様々な論文・データを収集し、結論をまとめたもの。  
現段階で発表されている内容であり、今後変更される可能性があります。



## 比較表

	(従来の) いわゆる健康食品	特定保健用食品	(今後の) いわゆる健康食品
機能性表示の範囲	機能性表示はできない (効能効果は謳えない)	お腹の調子を整える、血圧が高めの方に、コレステロールが高めの方に、血糖値が気になる方に等	部位も含めた健康維持・増進に関する表現（疾病名を含む表示は除く）
特徴	エビデンスによる証明がなくても販売出来るが、表示範囲が狭く訴求力が乏しい。	保健の効果を記載できるが、エビデンス取得の為に時間と費用（数千万円～数億円）がかかる。	機能性関与成分についてエビデンスがあればある程度文言で訴求できる。

今後はきちんとしたエビデンスを取得し、少しでも訴求力のある製品作りをしていくことが重要となります。又、新制度の導入により機能性表示が可能となると共に、企業の責任が今まで以上に求められることになり、リスク管理も重要となってきます。

「社団野口」では、「財団野口」のネットワークを最大限に活用し、提携のクリニックやCRO（医薬品開発受託機関）、SMO（治験施設支援機関）等で臨床試験を実施する為、コストを抑えながらも信頼性の高いデータを取得することが可能です。是非ご相談下さい。

# 賛助会員のご紹介

「財団野口」は、国際医学交流の推進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。活動に当たっては外部の方々のご支援・ご協力が必要であり、その一つの方法として、“賛助会員制度”を設けています。『Noguchi Times Vol.4』では千代田国際語学院様をご紹介します。

## 千代田国際語学院様のご紹介



千代田国際語学院(新校舎)

千代田国際語学院は、2001年に東京都千代田区に開校し、中国を始めとして、ネパール、インド、パキスタン、ベトナム等アジア諸国から多くの外国人留学生を受け入れています。また、2014年には日本語教育機関として更なる充実を図る為、豊島区池袋の新校舎に教育の場を移すことになりました。

当学院では、日本語を習得するだけに留まらず、日本での生活や、文化、習慣等にも目を向け、総合的に日本のことを理解し、将来のステップアップに繋げることができればと考えています。また、卒業生の多くが進学し、日本語能力試験等の合格者が多いことも特徴の一つです。

留学生活に多々不安を抱えている学生にも、進学、生活など様々な相談に親身に応じて行く為、安心して学業に専念できるようサポートしています。

千代田国際教育グループ  
会長 栗田 秀子

## 野口記念インターナショナル 画像診断クリニックのご案内

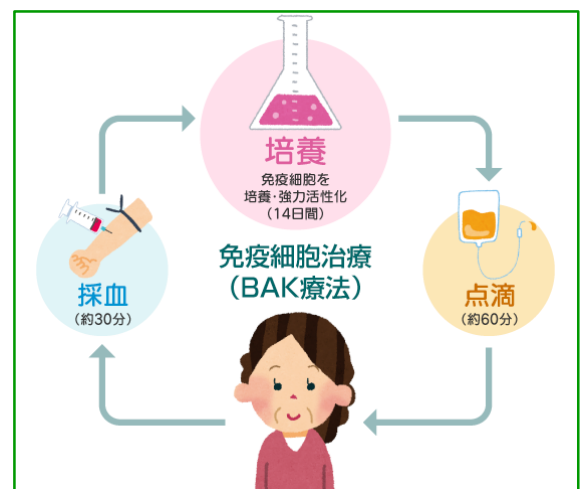
佐藤俊彦先生（米国財団法人野口医学研究所 理事、放射線専門医）が院長を務めるクリニックです。

### 免疫細胞療法（BAK療法）

人間の身体には、癌細胞等の「身体にとって危険な細胞」を排除する機能が備わっています。

その中心を担うのが「免疫細胞」と総称される細胞群です。この免疫細胞を、体外で大幅に増殖、強力活性化し、再び体内に戻すことにより、副作用を伴わずに細胞レベルで癌細胞を攻撃する治療法が免疫細胞治療「BAK療法（腫瘍抗原非特異的治療法）」です。

身体に優しく副作用を伴わないというのがこの治療法の特徴です。又、入院の必要もありませんので、仕事をしながら治療を受けることが可能です。標準治療と併用でき、転移、再発予防にも効果を発揮します。



【所在地】

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門1-22-13  
虎ノ門秋山ビル2階



## NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 4

---

発行日 2014年10月9日  
発行人 安東 恭助  
発行所 米国財団法人野口医学研究所  
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13  
電話 03-3501-0130  
米国財団法人野口医学研究所 参与会

---